

博報財団 第9回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究概要

氏名（在住国名）	リカル・ブル・トゥルイ（スペイン）
所属	バルセロナ自治大学、バルセロナ世界文化博物館
招聘回（招聘研究期間）	第9回（2015年3月1日～2015年8月31日）
受入機関	国際日本文化研究センター（京都）
招聘研究テーマ	20世紀の日本とスペインの芸術関係 ～エウダル・セラ、ジョアン・ミロ、アルティーガスを中心に～
研究目的	<p>20世紀の日本とスペインの芸術、2国間の実りある芸術家達の関係と影響について調査・研究し、出版物や展覧会などの長期的発展可能なプロジェクトを企画し、発表することが目的です。</p> <p>具体的には、スペインの美術館等と企画している日本とスペインに関する展覧会のための調査と会議を行い、日本での共同開催展を企画することです。</p> <p>またキュレーターをしているバルセロナ市世界文化博物館にはエウダル・セラが日本で購入した作品が4000点もありその調査をし目録を作ることも、また企画展をすることも目的の1つです。特に彼が北海道を訪れた際に自ら作ったアイヌの人々の彫刻や撮影した写真、購入した作品を調査し、企画展「アイヌとセラ（仮題）」を実現させたいと思っています。</p> <p>さらに私の専門のジャポニスムに関する講演会、研究会などに参加したり、茶の湯や書道や俳句を含め、日本の哲学と民藝運動についての資料を集め、将来の出版物や大学での授業の備えとすることが今回の研究の目的です。</p>
研究概要：	<p>研究の主な活動は、滞在先の国際日本文化研究センター図書館での資料調査です。日本でもここにしかない資料、海外でも手に入らない資料があり、大変有意義な調査ができました。</p> <p>また実地調査も多く行うことができました。日本の古都京都に滞在するメリットを最大限に活かし、寺社や美術館、博物館を訪れ、日本の文化、哲学をより深く学ぶことができました。またジョアン・ミロや彼の陶芸担当のアルティーガス、エウダル・セラが訪れた日本各地を訪問し、調査・インタビューを行いました。例えば益子の濱田庄治記念館、信楽の上田直方氏の工房等、東京の勅使河原蒼風氏の草月会、北海道の旭川では川村カネト記念館、平取の萱野茂二風谷アイヌ資料館を訪問、また白老の宮本イカシマトク氏と木下清三氏のご家族ともインタビューをすることができました。エウダル・セラの日本側のご家族やミロの日本訪問旅行の関係者の方々とコンタクトを取ることができたのも大きな収穫でした。他にも沖縄では那覇市立壺屋焼物博物館などを訪れ、やちむん焼きや紅型についても調査しました。さらに大津絵博物館や大津市歴史博物館では大津絵について、大阪や東京の美術館では浮世絵や陶芸について学ぶ機会があり、バルセロナ市世界文化博物館の所有している作品に関する調査をすることも十分にできました。こうした訪問は本だけでは得られない知識を実体験として総体的に得る大変貴重な機会となりました。日本文化の奥深さを痛感しました。</p>

さらに講演会や研究会への参加を通じて、専門家の方々と交流を持ち、様々な意見に触れることができました。

展望：

今回の滞在の成果として、短期のものが3つあります。まずスペインで2012年から執筆している日本文化の専門誌 *Eikyo* の2015年秋号に「三雲祥之助～地中海の日本人画家～」と題した記事を出版します。バルセロナに滞在した日本人画家についての記事です。次に錦絵250年記念のための錦絵とジャポニスムについての記事が8月に『別冊太陽』が平凡社から出版されました。3つ目は *La Caixa Foundation* の パルマ・デ・マヨルカの美術館にて2015年9月から2016年9月まで、企画展『アングラダ・カマラサと日本美術』を行う予定です。スペイン人画家のアングラダ・カマラサが収集していた浮世絵の研究を行い、展示の企画と目録を作りました。

また中期的な展望といたしましては、企画展『エウダル・セラとアイヌ』があります。バルセロナ市世界文化博物館で2016年頃に行いたいと思っています。エウダル・セラは北海道でアイヌを訪ね、アイヌの村に滞在し、アイヌ作品を収集し、自らも彫刻やスケッチをしました。当時の写真や手記をもとに、今回北海道を訪れインタビューを行った結果、大部分の写真の人物が誰なのか判明し、バルセロナ市世界文化博物館で所蔵しているアイヌの作品がどういった意味のあるものなのか、衣服に関しては誰が作ったものなのか、当時の村の様子や時代背景もわかりました。スペインではアイヌについての知識があまりないので、アイヌの文化とそれに魅力された芸術家セラの作品、収集品について紹介できることを大変楽しみにしています。長期の展望としては、日本とスペインで大展覧会を行いたいと思っています。現在両国の美術館と交渉中ですが、2019～2020年の開催を目指しています。

今回の滞在では、スペインでは手にいれることが不可能な貴重な資料を集めることができました。ヨーロッパの芸術家達を魅了した日本文化や「ZEN」とそのムーブメントに関する資料も集まり、今後展覧会を企画したいと思っています。

また大学の授業の中でも日本美術、ジャポニスムについてより多く扱っていかうと思っています。

目標としていた資料収集に加えより多くの企画ができ大変充実した貴重な滞在となりました。博報財団の皆様、ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。